

大学生のボーイスカウト活動と社会的スキルに関する研究

山中 祐貴 (G120003)

指導教員：土田 満

キーワード：大学生，ボーイスカウト，社会的スキル，自己肯定感

はじめに

近年、大学生に必要とされるスキルに「コミュニケーション能力」あり、平成24年に中央教育審議会大学分科会大学部会で批判的思考力、コミュニケーション能力や問題解決能力、チームワーク能力（社会的スキル）が必要であると提言している。

社会的スキルは、WHOによると日常生活の中で出会う様々な問題や課題に対処できる能力と定義されている。児童、生徒、学生の社会的スキルに影響する要因のひとつとしてクラブ活動がある。青木¹⁾は高校生の部活動の社会的スキルとの関連について調査し、運動部活動所属は無所属、文化部活動所属よりも社会的スキルが有意に高いことを明らかにしている。運動部活動を行っている学生は、集団で競技を行うことにより、社会的スキルが向上する報告も見られる。

一方、クラブ活動と同等の効果として集団活動がある。集団宿泊活動で、参加者は初対面の状況でも、より良い人間関係が形成されることが認められている。組織的な集団活動の代表的として、ボーイスカウト（BS）活動がある。BS活動は、就学前の児童から成年までを隊区分し、各隊は活動目標や活動範囲が決められ、各年代の学習能力に応じた進歩制度、活動プログラムを展開している。片岡ら²⁾は、ガールスカウト（GS）活動を行っている中高生と行っていない中高生の自己肯定感を比較して、GS活動経験が自己肯定感や性受容にプラスの影響を与えていることを報告しており、GS活動が社会的スキルを始めとする、社会に通用する人間形成のスキル獲得に繋がる可能性が示唆されている。

以上のことから、BS活動と社会的スキルや自己肯定感等の関係を明らかにするために調査を行い、併せてBSの活動地域、組織体系による関連性の違いも検討した。

方法

1. 調査方法

以下の二つ調査を行った。

- 1) 愛知県のEV活動大学生と一般大学生の比較調査
- 2) 愛知県のEVと東京都のEVの比較調査

2. 調査内容

項目は基本属性、社会的スキル、自己肯定感、母親/父親像、ジェンダー・アイデンティティーである。

3. 分析方法

社会的スキル等各尺度はそれぞれ因子分析を行った。愛知EV活動群と一般大学生群の比較調査では、各尺度の下位尺度について、BS大学生と一般大学生で男女別にt検定、Mann-Whitneyのt検定を行った。各尺度の関係は、共分散構造分析で解析を行った。

愛知県のEVと東京都のEVの比較調査では、前述と同様に検定した。主成分分析、クラスター分析で類型化し、愛知BS大学生と東京BS大学生の特徴を検討した。

解析にはIBM SPSS Statistics ver. 21.0、および共分散構造分析ソフトIBM SPSS AMOS ver. 19を用いた。

結果

愛知BS活動群39名、一般大学生群39名、東京BS活動群30名、計108名を分析対象とした。

1. 対象群の属性

BS活動群及び一般大学生群で男性77%、女性23.0%であり、クラブ活動は28%が運動系、10%が文系に所属していた。BS活動歴は、全員が5年以上続けていた。

愛知BS活動群及び東京BS活動群で男性86%、女性14%であり、クラブ活動は愛知BS活動群で30%が運動系、東京BS活動群で13%が運動系に所属していた。BS活動歴は、全員が5年以上続けていた。

1) 愛知BS活動群と一般大学生群の比較調査

男女別に各尺度における下位尺度の得点平均値を比較すると（表1）、社会的スキルでは、男子で「対人会話スキル」と「コントロールスキル」で、BS大学生の得点平均値が有意に高いことが認められた。女性では「対人会話スキル」、「印象スキル」で、BS大学生の得点平均値が有意に高いことが認められた。

自己肯定感では、男性で「前向き感」「肯定感」で、愛知BS活動群の得点平均値が有意に高かった。女性ではいずれの下位尺度にも有意差は認められなかった。

表 1. 下位尺度の得点平均値

尺度	下位尺度	男子		有意差	女子		有意差
		ボーイスカウト (n=30)	一般学生 (n=30)		ボーイスカウト (n=9)	一般学生 (n=9)	
社会的スキル	コントロールスキル	3.32±0.60	2.87±0.59	*	3.40±0.49	2.36±0.87	n.s.
	対人会話スキル	3.33±0.95	2.44±0.75	**	3.62±0.73	2.33±1.01	*
	印象スキル	3.73±0.69	3.25±0.75	n.s.	4.02±0.55	2.83±0.97	*
	高度なスキル	3.24±0.73	2.85±0.77	†	3.22±0.57	2.59±1.21	n.s.
自己肯定感	前向き感	2.94±0.64	2.32±0.58	**	3.07±0.98	2.48±0.89	n.s.
	肯定感	3.03±0.68	2.47±0.66	**	2.77±0.64	2.62±0.80	n.s.
	自信	2.66±0.74	2.63±0.65	n.s.	2.83±0.55	2.66±1.00	n.s.
父母像尺度	父母への同一視	2.83±0.63	2.60±0.73	n.s.	3.16±0.66	2.83±0.67	n.s.
	父母としての将来像	2.71±0.64	2.61±0.67	n.s.	2.78±0.81	2.41±1.22	n.s.
ジェンダーアイデンティティ	一致-貫性的同一性	6.18±0.79	5.95±0.97	n.s.	6.38±0.82	5.08±1.88	*
	現実展望的同一性	4.90±1.35	4.43±0.79	n.s.	4.64±1.01	4.81±1.68	n.s.

n.s.:not significant, †p<0.10, *p<0.05, **p<0.01

探索的モデル特定化の手法を用いて最適なモデルを特定した最終結果を図1に示した。BS活動経験が、自己肯定感、父母像、ジェンダー・アイデンティティの得点に何らかの効果を示している。社会的スキルには、ジェンダー・アイデンティティから自己肯定感を介して何らかの影響を与えている事が明らかになった。

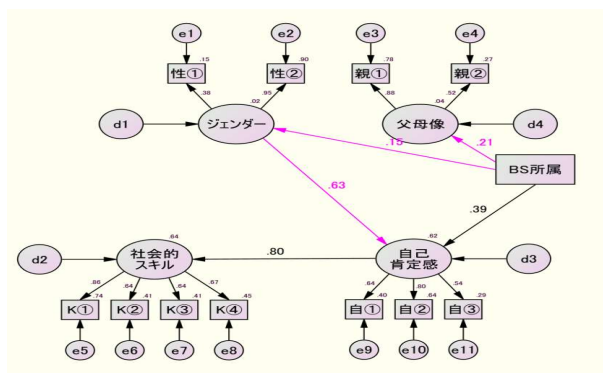


図 1. 構造方程式モデリング結果

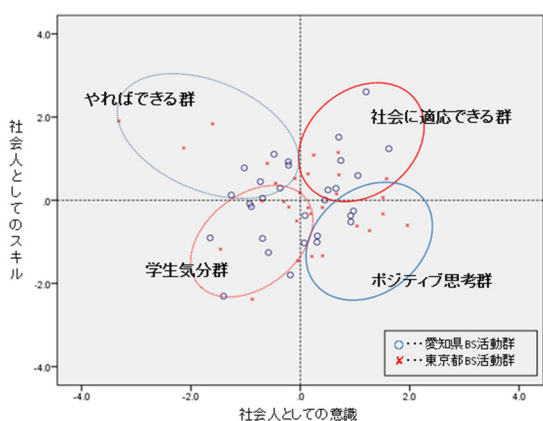


図 2. 愛知、東京 BS における主成分得点の散布図

2) 愛知 BS 活動群と東京 BS 活動群の比較調査

男女とも各下位尺度の得点平均値は、愛知、東京 BS 活動群間に有意差は殆ど認められなかった。

主成分分析、クラスター分析により愛知、東京 BS 活動群の特徴を4つのグループに類型化した結果を図2に示した。「社会に対応できる群」では、愛知 BS 活動群の36.7%に対して、東京 BS 活動群では16.7%と、愛知 BS 活動群が東京 BS 活動群と比べて2倍以上多かった。

考察

愛知 EV 活動を行っている学生と愛知一般学生の社会的スキル、自己肯定感等を比較した結果、愛知 EV 活動群において社会的スキル、男子においては自己肯定感の得点平均が有意に高かった。片岡ら⁵⁾は、ガールスカウト(JV)活動を行っている中高生と行っていない中高生の自己肯定感を比較して、JV活動経験が自己肯定感や性受容にプラスの影響を与えていることを報告している。本研究も同様な結果であった。また、キャンプ実習への参加者は、気分を改善し、不安を軽減し、メンタルフィットネスを改善すること、コミュニケーション能力を向上させるのに有効であるという報告もされている。EV活動の両親を交えた組織的な集団活動が社会的スキルや自己肯定感の向上に繋がったと推察される。構造方程式モデリングでは、EV活動がジェンダー・アイデンティティ、あるいは自己肯定感を介して間接的に社会的スキルを高める事が示されている。EV活動の組織的な活動内容が、両親の指導の下、伝統的な規範を重んじ、社会人として必要な資質を身に付けさせる進歩制度であることが、ジェンダー・アイデンティティや自己肯定感を向上させることに寄与していると推察される。

EV活動地域による検討では、愛知 EV 活動群は社会に適応できる群の割合が東京 EV 活動群よりも多いことが認められた。愛知 EV 活動は県単位で行われているのに対して、東京 EV 活動群では大学単位で EV 活動が行われている。県単位の活動は、同年代の様々な立場の社会人も同一の活動を行うことで、社会に適応できる群の割合を増加させていることが考えられる。

BS活動は、指導者の下で幼児期から青年期まで一貫したプログラムを班制教育で行うことで、現代社会で必要とされる社会的スキル等を身に付けることができる有効な活動であることが示唆される。

参考文献

- 1) 青木邦男:高校運動部員の社会的スキルとそれに関連する要因. 国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要 5, 25-34, 2005
- 2) 片岡麻里ら:ガールスカウト経験が中・高生女子の自己肯定感に与える影響. 日本教育心理学会発表論文集 53, 457, 2011